

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：37301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26381276

研究課題名（和文）中国の道德教科書体系及び子どもの意識における自己肯定感、生命尊重、平和責任の研究

研究課題名（英文）Research on Self-affirmative consciousness, Respect of Life and Peace Responsibility in Chinese Moral Textbooks Systems and Consciousness of Children

研究代表者

上 蘭 恒太郎（Kamizono, Kohtaro）

長崎総合科学大学・共通教育部門・特任教授

研究者番号：50128005

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：中華人民共和国の道德教科書を計18種類体系的に収集した研究で、『品德と生活』『品德と社会』を中心に、自己肯定感、生命尊重、平和責任の視点から分析した。中国教科書においては、歴史認識と地理認識が政治と共に道德教育に統合されており、教科書編集意図の子どもによる受け入れが中国共産党の正当性の受け入れになるように設計されている。自己肯定感育成においては、他者からの視点の優位、中国人としての誇りと祖国への奉仕、集団への貢献を通しての評価、成長の記録をつけるポートフォリオ評価などが書き込まれている。愛国心について指導者の意向が直ちに授業に反映され、子どもの意識に反映している様子を連想法により析出した。

研究成果の概要（英文）：The collected 18 kinds of Moral Textbooks of People's Republic of China, mainly "Moral and Life" and "Moral and Society", were analyzed from three points of view, namely self-affirmative consciousness, importance of life and peace responsibility. Chinese moral textbooks integrate historical recognition, geographical recognition and politics into moral consciousness, and organized to identify the acceptance of intention of moral textbooks to the acceptance of legitimacy of Communist Party of China. In process to enhance self-affirmative consciousness of a child, viewpoint from others is a dominant factor, pride as a Chinese and service to the country, assessment by contribution to a school group, and portfolio assessment recording personal growth are written systematically. Intention of the Chinese leader reflects directly to moral education, and we found a patriotic reflection in consciousness of children by research of association method in a school

研究分野：道德教育，教育哲学

キーワード：中華人民共和国の道德教科書 連想法 自己肯定感 生命尊重 平和責任 振り返り 品德と生活 品德と社会

1. 研究開始当初の背景

日本において道德資料の教科化が論議される時期に、道德教科書の体系性において先進的な中華人民共和国の道德教科書について、自己肯定感、生命尊重、平和責任の3つの視点から分析を行うことに意義があった。

2. 研究の目的

日本の道德教育の方向を明らかにし、教科書の在り方を探るために、道德教科書の体系性において先進的な中華人民共和国の道德教科書について、自己肯定感、生命尊重、平和責任の3つの視点からどのように記述されているかを分析し、子どもの意識にどのように反映しているかを探る。

3. 研究の方法

中華人民共和国の道德教科書を今までにない量の18種類にわたって収集・分析し、3つの視点からの分析をおこなう文献研究であり、ならびに大学生や児童生徒においてどのような道德意識が醸成されているかを探る意識研究である。

4. 研究成果

(1) 中華人民共和国の道德教科書にみる自己肯定感、愛国心へと集約されて育てられるように見える。すなわち教科書記述は、自己受容は他者からの受容の自覚を出発点とし、子どもが、他者からの受容を自覚し、自己評価と他者評価を通して自己を受容する形をとる。

(2) 自己肯定感の持たせ方として、中華人民共和国の道德教科書は、中華民族の偉大な復興のために努力する姿、祖国に奉仕する志を強調し、個人多様性の意識よりも集団への貢献を通じて自己を評価するように求める。自分の夢と中国の夢を重ねることは習近平の要請であり、これに応える学校教育の中で、連想調査により「愛国」を自己肯定とする意識を生徒の中に見出した。

中国の道德教科書は、1. 自分を受け入れる(自己受容)のために、他者からの受容を自覚し、自己評価、他者評価を通して、自己を受容し、自らを愛し自らを大切にすること、すなわち「自愛」を基本価値に据え、自らを尊重し(中国語:自尊)自らを信じ(中国語:自信)自らを誇りとし(中国語:自豪)自らの足で立ち(中国語:自立)自ら努力し向上する(中国語:自强)価値を育み、自分を肯定するよう導く。さらに愛し、肯定する対象を、自分を出発点として家族、集団、国家へと広げる教科書構成によって愛国心を涵養し、祖国並びに中国共産党を肯定し受容するよう導く。2. 何かができる、何かになれる、

感覚がある(成長する子ども、夢や希望を持つ子ども)として、成長する喜びを甘受し、英雄や模範を見習い、正しい「人生の目標(理想・夢)」を持つことが大切であり、それは社会の必要から出発し、国家や民族の命運とつながらなければならない。中国共産党を擁護し指導を仰ぎ、中華民族が力を結集することによってのみ夢は実現すると説く。3. 自己肯定感の評価として、「素晴らしい」「すごい」などの言葉を添えながら、自分や仲間、地域や祖国の長所、優れたところを見だし、肯定できる点に目を向けるよう導く。さらに、集団への貢献を通して自己を評価する。4. 自己肯定感へと励ます方法として、「私はできる」などの自己を肯定する言葉を繰り返し自分自身に語りかけ、心理的な暗示を使って、自己を鼓舞し、自信を強化し、潜在能力を引き出し、困難を克服し、常に前向きに向上しようとする態度を涵養する。中国における自己肯定感の育成は、自分の夢を中国の夢に重ねるように導かれる。個人の目標(理想・夢)を実現するために、自己を肯定し、集団の榮譽に貢献し、中国の夢に重ねて個人が有用であるとの構造を示す。それは、習近平の「中華民族の偉大な復興を実現することこそが、中華民族が近代以来抱き続けてきた最も偉大な夢である」と「中国の夢」を打ち出し、「二つの百年奮闘目標」を掲げ、「中国共産党結成100周年までの小康社会の全面完成」という目標は必ず達成でき、新中国成立100周年までの富強・民主・文明・調和の社会主義現代化国家の完成という目標は必ず達成でき、中華民族の偉大な復興という夢は必ず実現できると私は確信している」と強調する55 政治的リーダーシップと重なる。中国の道德教育において、歴史認識、地理認識、政治、道徳が教科書において一つの世界観に統合されている。統合された力は、子どもの知識と思考とアイデンティティを形成する強さをもっている。歴史認識、地理認識、世界観と政治を道徳と統合して編纂するのは、教科書を編成し導こうとする意図が子どもに受け入れられることを通じて、意図が正当化され、子どもの道德教科書受容(acceptance)が中国共産党の正当性(legitimacy)を確立することになると期待するからである。道徳授業の受け手である「私」が、教科書編成の意図として私に繋がれた中国共産党の世界観から抜け出すには、統合された世界観から己の世界観を外に出すほかない。中国道德教科書に示される統合の結節点は、中国共産党が握っている。

翻って考えると、日本の道德教育は、個人の形成において、自由と民主主義を許容する政治体制の正当性を示している。すなわち日本の道德教育は価値を教科書において統合しない構成によって、価値をどの

ように統合するかを子どもに任せている。言い換えれば、価値の統合を子どもの主体性に預けて、統合の多様性を許し、民主主義における価値の多様性を保証しようとしている。価値統合の自由を子どもに保証するが故に、コンセンサスを求めて教室において話し合いをおこない、コンセンサス型民主主義の正当性を示すことになる構成を教科書において示している。

教えた価値の自分への統合と実行を子どもに委ねる道徳教育は、子どもを価値の主体として育てる意図を意味する。自分への価値の統合は、生活への統合でもあるし世界観への統合でもある。授業時間のねらいを理解するだけでなく、生きていくために、価値を自分において統合した理解へともたらし、道徳教育としては意識する深さを持つべきである。道徳教育が子どもを主体として育てるとは、個人における価値統合を意識することであろう。道徳教育は優れた価値を受け入れることが自己肯定感を育てるようにならなければならない。子どもがどのような形で自分に価値を統合するかの過程を見通す必要がある。そして価値統合の多様性を相互に認め合う理解に到るために、協同で話し合う必要がある。

1つの授業は、授業の目標と授業素材、教員、子ども、教育方法の5つの要素によって成立するよう見えても、どのように構成された教科書を配当するかを通じて、道徳教育の構成と背景にある政治体制の正当性を受け入れさせる営みになる。教科書の構成は、学校経営方針などと並んで教室の外にある第6番目の要素として、授業論において意識されてしかるべきである。道徳教育がいじめや自死防止を志向するならば、教育の要として学校教育に位置を占め、民主主義を支える教科書構成をとっているとき、自己肯定感に支えられた個人の育成が急務であろう。

(3) 中華人民共和国の道徳教科書においては歴史記述が戦争の記述としてなされ、アヘン戦争から他日本の支配に続く屈辱の歴史から中国を救い出したのが中国共産党である、との歴史認識を読み取るように構成されている。また、中国人民軍は平和維持軍である、中国が世界の工場となることによって世界の平和を維持し、世界平和のために世界で活躍し、長崎に乙女の像を送るなど、平和関係構築に努めている国などの記述がなされる。

(4) 道徳教科書において世界の平和維持に貢献して落命した父を誇りとする息子の手紙を載せるなど、中華の繁栄へと生き方を集約する意図がうかがわれる。必ずしも人気があるわけではない中国共産党へと児童生徒の意識を集約するのではなく、中

華の繁栄への、したがって愛国心への生き方の集約が図られている。日本の生命尊重、生命が何よりも大切であり、その理由を心に刻ませる形の記述は薄い。

価値項目を並べて教える形の日本の控えめな道徳資料(教科書)に比べると、中国の道徳分野の教科書は、以下の特徴を持つ。

第一に、重厚である。その重厚さは、地理・歴史・政治と結び付けて記述し、“大徳育”の考え方にたつて、愛国主義教育、思想道徳教育、行為規範教育を強化し、子どもたちの実践能力と創造能力を育成しようと、教科書の中に国家行事や共産党の下部組織である少年先鋒隊の儀式や活動も盛り込まれ、中国化したマルクス主義(中国の特色ある社会主義)世界観と人生観・価値観を包摂して道徳教育がおこなわれるように構成されているところにある。

第二に、多様である。その多様さは、上海市は、国家教育部とは別に独自に「課程標準」を作成しており、北京市では、独自に編纂した教科書を使用し、遼海版や上海：科技版には、他とは異なる構成の工夫が見られ、それぞれの教科書で記述される情報の質と量が異なるところにある。

第三に、戦争と平和が語られている。最大の不道徳である戦争を語ることによって、中国共産党の正当性が根拠づけられている。さらに中国の道徳教育は、中国共産党へと意識を統合しながら、中国共産党が腐敗や経済格差によって不評であるところから、愛国心という形で子どもの道徳意識を、住んでいる土地から中国へそして世界へと地理認識の拡大に沿って醸成し、中華民族の称揚によって、多様な民族の統一を図り、2012年11月に習近平国家主席が語った「中国の夢」を「私の夢」と重ねて国家と個人のアイデンティティを統合する教育装置となっている。

また、中国は、平和を追求していると説明し、人民解放軍は平和維持軍である、中国は科学技術を発展させ、それを平和的に利用し、人々に幸福をもたらす、国際連合などの国際組織に積極的に参与して、世界平和を希求しており、経済関係によって世界平和に貢献し、今後も環境問題への取り組みなど、世界全体を「地球村」と考えて、世界の華人とともに、平和への貢献をしていくと謳っている。

中国の道徳教科書は、子どもが、歴史、地理、政治、道徳の統合された構成を受け入れることによって、中国共産党の指導の正当性を受け入れることになる構造、個人のアイデンティティを国家へとつなぐ構造をもつ。日本が平和国家として近隣諸国との関係を作っていくのであれば、中国の道徳教育が「イデオロギー上の正しさの

基準」として、子どもの意識を醸成し、アイデンティティを形成している現状を理解し、齟齬の根を解きほぐす努力が必要だろう。平和について、上園恒太郎は「他者と助け合えること」と定義し、そこから出発して、共通の記憶を作り上げることを提案している。他者と助けあうために、「他者」を理解する努力が、道徳教育において大切である。人のあり方として、すなわち道徳教育として、他者という鏡を通して、自己を顧み、異なる記憶をすり合わせる対話を重ね、共有可能な歴史認識を構築することが、他者とともに平和な未来を得るために、必要である。教育によって平和を創ることができると思う。

(5) 中華人民共和国の道徳教科書は、歴史認識と地理認識、それに政治を重ねて道徳へと統合する体系性を持っており、教育現場において価値を教える意識が強いと見受けられる。

教科書編成の意図として、道徳教育を国家統合に役立たせる意図は強いと見受けられる。それは、(1)日本と同様に、価値を並べて教えた values education の時期から、(2) 統合した世界観を教えながらも、多様な道徳教科書が存在した『品德と生活』『品德と社会』『思想品德』の時期から、現在さらに(3)『道徳と法治』へと変わり、なお国定教科書への論議を行っているところに現れており、変化の途中である中華人民共和国道徳教科書の動きからしばらく目が離せない。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 9 件)

上園恒太郎，蒲池文恵，中華人民共和国の道徳教科書にみる自己肯定感の育て方と愛国心への集約，長崎総合科学大学紀要第 56 巻 2 号 2017 ,94-148 査読あり，国際共著，オープンアクセス

上園恒太郎，自己肯定感を育む道徳授業，『道徳教育』4 月号，明治図書，依頼原稿，2017，86-87，

上園恒太郎，「考え，議論する」道徳授業をめざそう！手づくり連想マップの活用，『はばたこう明日へ』第 2 号，依頼原稿，2017，12-13

上園恒太郎，蒲池文恵，中華人民共和国の道徳教科書にみる戦争と平和 - 教科書を通じた統合，長崎総合科学大学紀要第

55 号 2 巻，42-96，2016，査読あり，国際共著，オープンアクセス

蒲池文恵，上園恒太郎，中華人民共和国の道徳教科書における戦争と平和，道徳教育方法研究第 21 号，1-10&I,2016，査読あり，国際共著

上園恒太郎，子どもを支える道徳授業の必要，教育哲学研究第 112 号，2015，130-150&294-295，査読あり

眞榮城善之介，上園恒太郎，上地完治，民話を活かした日・台共通道徳学習指導案による「思いやり」の授業，道徳教育方法研究第 20 号，2015，51-60，査読あり

岡崎耕，上園恒太郎，未来からの振り返りによる自己肯定感，道徳教育方法研究第 20 号，2015,11-20，査読あり

Kohtaro Kamizono，Values Education for Enhancing Self-Affirmative Consciousness ,Jubilee Center for Character and Virtues, Oriel College, Oxford, 2015，査読あり，オープンアクセス

〔学会発表〕(計 6 件)

— 上園恒太郎，聞く資料による道徳授業 - 子どもの自己肯定感を育むために - ，九州教育学会第 68 回大会，2016

— 蒲池文恵，上園恒太郎，中華人民共和国の道徳教科書における自己肯定感，日本道徳教育学会第 87 回大会，2016

— Kohtaro Kamizono，Moral Education for self-affirmative Consciousness in East Asia- Clinical comparison of consciousness of children-, Association for Moral Education 第 41 回大会，2015，サントス(ブラジル)

— 上園恒太郎，蒲池文恵，中華人民共和国の道徳教科書における戦争と平和，日本道徳教育方法学会第 21 回研究発表大会，2015

— 岡崎耕，上園恒太郎，未来からの振り返りによる自己肯定感，日本道徳教育方法学会第 20 回研究発表大会，2014

— 眞榮城善之介，上園恒太郎，上地完治，民話を活かした日・台共通道徳学習指導案による「思いやり」の授業，日本道徳教育方法学会第 20 回研究発表大会，2014

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上藺恒太郎 (KAMIXZONO Kohtaro)
長崎総合科学大学・共通教育部門・特任教授
研究者番号：50128005

(2) 研究分担者

(なし)

研究者番号：

(3) 連携研究者

(なし)

研究者番号：

(4) 研究協力者

(なし)